富山県立大門高等学校
同窓会報
第32号
発行所　富山県立大門高等学校同窓会
事務局　ＴＥＬ(0766)５２－５５７１
E-Mail：anzen.daimon@gmail.com

コロナ禍から学び、前へ進もう！

同窓会長　（１期生）　小林　伸一

ＣＯＶＩＤ－１９（新型コロナウイルス感染症）との闘いが始まって１年余り。人が長い年月をかけて築き上げてきた社会システムや価値観は大きく変化し、私たちの生活は様変わりしました。

仕事を失ってしまった人、就職活動もままならず夢を諦めた人も多く、終わりが見えないコロナ禍で将来に不安を覚える高校生も少なくないことでしょう。しかし、私たちは生きる時代を選ぶことはできません。「ｗｉｔｈ　コロナ」。コロナ禍での高校生活をどう過すか、与えられた時間は一緒です。

新型コロナのせいで変わらざるを得ないものも多いですが、コロナのおかげで変わることができたものも少なくありません。これまでのルールに縛られることなく、むしろこれまでの慣例を捨てることさえ求められています。つまり、私たちは今、本当に必要なものは何かを自由に考え、選択できるチャンスだとも言えます。その時に重要になってくるのが情報です。それは、私が高校生だった３０年ほど前とは比べものにならないほど大量です。ただ、デマやフェイクニュースも多く、間違った情報があっという間に拡散されるＳＮＳ時代。流言飛語からトイレットペーパーが店頭から消えたことも記憶に新しいことでしょう。人間の不安や不満は、冷静な判断能力を一瞬にして奪ってしまいます。

令和３年の幕が上がり、世界各国ではワクチン接種が始まっています。この同窓会報が皆さんの手元に届くころにはコロナの感染が一段落していることを願ってやみませんが、コロナがもたらした価値観の変化は加速度を増し、私たちの生活を変えていくことでしょう。「ａｆｔｅｒ　コロナ」をどう生きるか。人生に正解はありません。間違えたと思うことがあったとしても、自分を否定することなく、別の方法で再チャレンジしてみて下さい。私が５０歳になって思うことは、自分が思っている以上に人生は短い。光陰矢の如しとはよく言ったもので、あっという間の半世紀でした。失敗を挽回できる時間が皆さんにはまだまだ沢山あって、本当に羨ましい。

これからの長い人生、コロナ禍以上の苦難に立ち向かわなくてはならないことも多いと思いますが、憂いても何も変わりません。目の前にある壁を一つ一つ乗り越えていくのみ。辛い時は同窓生をどんどん頼って下さい。きっと力になってくれるはずです。新型コロナで顕になった人間の心に潜む様々な「鬼」を退治すべく「全集中」でこの困難を乗り越えていきましょう。皆さんの未来に幸多きことを願っています。「今を憂え悩むより、喜び楽しみながら前に歩み続けよう！」

オンライン授業

校　長　山下　行雄

同窓会員の皆様には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度は思いもしない新型コロナウイルスにより学校での教育活動が大きな影響を受けました。振り返ってみますと、新型コロナウイルスの感染拡大防止により３月から臨時休校となり、４月に入っても休校は継続し、５月半ばからの分散登校の後、６月にようやく全面再開となりました。本校では、この休校期間中の生徒の学習機会を確保するために、各学年、教科で沢山の課題プリントを作成し、郵送や宅配で家庭に届けました。生徒からの課題プリントの提出は、保護者の皆様のご協力を得て学校に持ってきていただきました。最初はこのような形で対応をしておりましたが、休校が長期化する中で生徒の学習を進めるために、オンライン授業の実施を決断しました。事前準備として、Ｇ Ｓｕｉｔｅ ｆｏｒ Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　の生徒全員分のアカウント作成、全校生徒の家庭のＩＣＴ環境について調査し、Ｗｉ－Ｆｉなど整っていない家庭への対応、先生方の研修会など様々な課題がありました。そんな折、同窓会役員の方から、「同窓会で出来ることがあれば何でも言ってください」とご支援をいただいたことは大変有り難いことでした。そうした中で一つ一つの課題を克服し、県下の高校に先駆けて５月の大型連休明けから全学年でオンライン授業をスタートさせたことは、まさに“情報の大門”として評価されたこれまでの実績のなせる技であったと思います。先生方のＩＣＴリテラシーも次第に目に見えて向上し、アンケート調査では、９６％の生徒が「オンライン授業で集中して学習に取り組むことができた」と回答し、保護者の皆様からも「他校より早くやっていただき有り難かった」などの感想が寄せられました。オンライン授業の様子については、今年リニューアルした本校ホームページに掲載しております。同窓会員の皆様には是非一度ご覧いただき、現役生の様々な活動にエールを送っていただければ幸いに存じます。

結びに、大門高校同窓会の益々のご発展を祈念するとともに、今後も本校教育への変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

案内

同窓会役員

役　職	氏　名	期生	役　職	氏　名	期生
会　長	小林　伸一	1	理　事	桑山　知子	1
会長代理	井相田礼子	1	理　事	山田　大輔	4
会長代理	石王丸敦司	3	理　事	島倉　奈緒	7
会長代理	若林　大輔	3	監　事	横山　貴一	3
理　事	福澤　泰樹	1	監　事	大木太恵志	4

～総会２０２１のご案内～

富山県立大門高等学校　同窓会総会２０２１
日時：２０２１年８月８日（日）山の日
場所：大門総合会館　※役員改選があります。

富山県立大門高等学校同窓会公式サイト
http://daimonhd-tym.org/
総会の写真、同窓会報が載っています。

各期同窓会開催に助成金を支給

「富山県立大門高等学校同窓会補助内規２」
富山県立大門高等学校同窓会一般会計から各期同窓会開催に助成金を支給する。助成金　３０，０００円
以下の条件すべてを満たすこと。
条件１　該当期同窓会員が 30 人以上参加し、その参加者名簿（将来的には申請書）を提出すること。（メール添付送信可）
条件２　同窓会公式サイトに載せることができる参加者全体の集合写真を提供すること。（メール添付送信可）
条件３　条件１、２を同窓会事務局が確認したのち、代表者は大門高校において助成金を受け取り、受領印を押印すること。
付則　　この内規は令和元年 11 月９日から施行する。

Ｆａｃｅｂｏｏｋグループ「富山県立大門高等学校同窓会」
現在メンバー１５０人。管理者は同窓会長の小林伸一（１期生）と石王丸敦司（３期生）。「富山県立大門高等学校創立３０周年記念事業実行委員会」２０１４年発足と同時に開設された。同窓会員であれば誰でも参加可能。参加希望の場合、いくつかの質問に答え、同窓会員であることを確認の後、承認される。

先輩の声
seniors voice

富山県立大門高校同窓生は、令和３年１月現在、６６７０名です。今年度は各方面で活躍する４人の卒業生の方に高校時代、在校生へのエール、近況報告など寄稿文をお願いしました。４人のプロフィールは以下の通りです。「氏名」でネット検索すれば、すぐにホームページ、ブログ、インスタグラムが出ますので、詳細はそれらを参考にしてください。

01　１０期生　柿谷浩一　　ポップカルチャー研究者

早稲田大学総合人文科学研究センター（招聘研究員）。ＮＰＯ放送批評懇談会（正会員）。コンフィデンスアワード・ドラマ賞審査員。専門は現代文化、現代文学、書誌学。作家やアーティストの「年譜・年表」製作。テレビドラマ論（月９「ＳＵＭＭＥＲ　ＮＵＤＥ」をモデルケースとした新たなドラマ論の構想。劇伴と主題歌の文化史。アイドル文化批評。

02　１１期生　今村公紀　　生物学者

２００３年３月、金沢大学理学部生物学科を卒業。奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科（修士課程）、京都大学大学院（博士課程）に進み、山中伸弥教授のもと０９年に博士号を取得。滋賀医科大学動物生命科学研究センター特任助教を経て、１０年から慶應義塾大学医学部生理学教室にて特別研究助教、特任助教。２０１３年から京都大学霊長類研究所・助教。

03　１１期生　島　香織　　シンガーソングライター

高校３年の時、ティーンズミュージックフェスティバルの富山代表に選ばれる。その後、北陸・関東・関西・東海・東北などイベント・ライブを中心に年間１００～２００本出演。２０１３年～拠点を東京に移し、全国発信に向け活動を開始。地元富山～全国・世界の架け橋として活動中。高岡市ふるさと応援特使に就任。

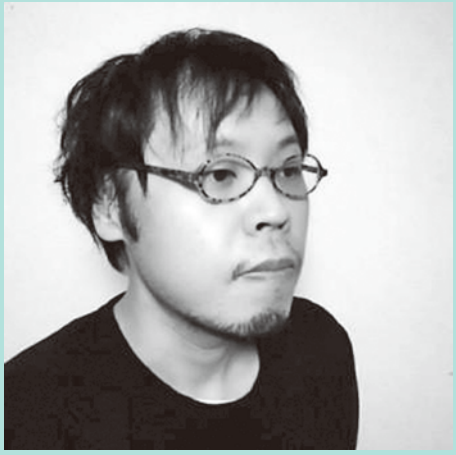
04　１５期生　柴田泰佳　　ＫＮＢアナウンサー

アナウンサー歴１４年目。愛称ばたやん。射水市（旧･小杉町）出身。２００７年に北日本放送に入社。同期に柳川明子と松平寛未。２０１２年双子の男児を出産。２児の母となった後、２０１３年に職場復帰。現在の担当番組　いっちゃん★ＫＮＢ － ＭＣ。ワンエフ － キャスター。

01

ちょっとした躓き・疑問から「学問」が始まる

１０期生　柿谷浩一　（早稲田大学招聘研究員）



私のデスクは、いま写真集で埋まっています。いわゆる芸術の写真家をイメージしたかもしれませんが違います。人気の俳優・女優の写真集です。何をしているかと言いますと……。作業のきっかけは三浦春馬です。生前出版された彼の写真集は3冊（フォトブックを入れると5冊）。死後すぐにオークションサイトでは、過去の写真集が高額で出品され、またたく間に売り切れていきました。中でも『ふれる』（２０１３・マガジンハウス）は飛びきり高値で、現在も10万円近くで売買され続けています。それだけ高くても手元に置きたい人が絶えない。その背景には、もう新品が入手できない以外のこともあります。購入できなくても、せめて実物を見ることができれば。でも図書館に行っても、まず所蔵されていません。閲覧する手段がないのです。これは三浦春馬に限った特別なことではありません。

そもそも役者やタレント、更にはアイドルの写真集といった類は、原則として図書館は積極的に集めていません。何故でしょう？ そこには図書館と蔵書をめぐる幾つかの経緯と事情が絡んでいます。詳しいことは割愛しますが、学校図書館でいうと、これらは個人で購入すべき消費物で、教育・研究に関係しないとする価値観がまだ残っていることも大きいです。少し前まで漫画やライトノベルも同じ感じでした。それを研究対象と認める視点や土壌が十分なかった。でも時代と共に、徐々に価値が見直されています。そんな中、写真集は旧態依然のままです。図書館所蔵が難しくても、それらを保存する活動があればまだ良いのですが、本格的なものは無い。このままで良いのだろうか？と思った私は、図書館資料（情報資源）の専門的なことはもちろん、そもそも毎年どれだけの数の写真集が生まれ消費され、その実物と情報がどう残されているのか・いないのか。現状を調べようと、時に購入しながら調査・検証し始めたのです。

芸能人の写真集は、たしかに娯楽かもしれない。でも同時に、その人の立派な「作品」であり、表現活動の軌跡を追う一級の「資料」でもある。そういう視点を、そろそろ図書館も含め、社会・文化全体が持つ必要があるのではないかと動き始めました。とはいえ、前例がほとんどない作業で悪戦苦闘続き。大変です（笑）。

研究というと、何だか難しく、自分たちの生活と遠いものに感じるかもしれませんが、そんなことはありません。日々のちょっとした疑問や気づきが、大概の研究のスタートです。それは皆さんの中にも日々たくさんある。何となく済まさず、しっかり気になったことに躓いて確かめてみる。特に高校時代は「答え」を求められる勉強続きですから、自分から出る「問い」の大切さを見失いがちです。後輩の皆さん、視野を広く持って色んなことに躓き、そして考えてください。進路や未来に悩んでいる人もいるでしょうが、きっとそんな「問い」の中に、やりたいことは隠れていたりしますよ。

数年前、母校学園祭で講演させてもらいましたが、またこの報告を携え、皆さんにお目にかかれる日を楽しみにしています。（食堂のアイスクリーム自販機まだありますか？あれを置いたのは私の生徒会です）

多岐「導」羊：大道へ多岐なるを以て羊を導く

１１期生　今村公紀（京都大学霊長類研究所 助教，医学博士）

02

―１９９７年９月 米国オレゴン州

「空が高いな。本当に『世界』はあったんだ。」

日々見慣れたはずの見上げた空は、しかしこれまで見知ったものよりも遥かに高く、文字通りのスカイブルーに薄く霞んだ雲が、そこが異国の地―富山でない世界― であることを鮮明に、理屈としての理解を超えて感性に伝えてきた。

唐突な情景描写で戸惑われたかもしれませんが、これは高校２年の夏、第１回国際環境サミットの一員として渡米した際に見た、今でも心に強く残っている情景です。僕は現在、京都大学の教員として、ｉＰＳ細胞の研究に取り組んでいます。京都大学医学部の大学院で博士号を取り、慶應義塾大学医学部などの教員を経て、現在に至ります。大学院ではノーベル医学・生理学賞の山中伸弥先生の研究室初期メンバーとして、ｉＰＳ細胞誕生の瞬間を目の当たりにしてきました。職業柄、キャリアについて講演する機会も多く、冒頭の高校時代の一幕は、今に通じる人生の転換点として語っているものです。それ以前の僕にとって、『世界』とはすなわち富山であり、他は実感の伴わない概念的対象でした。世界を舞台に競争と協力、講演を行い、国内では内閣や大使館、メディアの仕事も日常に感じる現在とは対照的です。あの日、思い切って飛び込んだ先に見た空は、僕にとってまさに『異世界』への入口でした。

さて、在校生のみなさん。みなさんは、かつて僕が『世界』だと思っていたところにいます。みなさんは大門高校をどのように見ていますか。また、みなさんには僕が今いる『世界』はどのように見えますか。高校生に講演をすると、「京大・医学博士」「ノーベル賞」「慶應医学部」などの一部ワードから、「こういう人たちは最初から特別だったのではないか」「自分とは違う人間ではないか」といったコメントをよく受けます。ですが、みなさんには真実の像がよく分かるはずです。なぜなら、僕もみなさんと同じ、一人の大門高校生だったわけですから。そしてもう一つ、みなさんの現在地の延長線、大門高校から拡がる路の一つが、知の最前線という世界にも確実に繋がっていることも見えてくるはずです。

先人の有り様というのは、みなさん自身のあり得る可能性の具現にほかなりません。僕がいる世界も、みなさんにとって現実的な選択肢の一つです。みなさんの先には、おそらくみなさん自身が思うよりも多くの路があります。大門高校からノーベル賞受賞者が現れたとしても、何ら不思議はありません。だからこそ、みなさんには自身の選択肢を看過することなく、真に望む路を希求してほしいと思います。あなたの選択が、あなたの可能性です。

「―世界はある、か。だったら、世界には何があるんだろう。自分に、何がどこまでできるんだろう。」

「探しに、行ってみよう。」

03

本当の自分で生きる喜び

１１期生　島　香織　（シンガーソングライター）

大門高校の皆さん、はじめまして、島香織です。私は２０００年からシンガーソングライターとして活動し、現在20周年を迎えました。ジャポニカ学習帳ＣＭソングをはじめ、県内でもＣＭソングを多数、歌っています。タレント、レポーター、ラジオパーソナリティ、ＹｏｕＴｕｂｅ「しまこのへや」などいろいろな活動をしています。この度、卒業生としてみなさんにメッセージを書くことになりました。

在学中は模範とはかけ離れた生徒でしたから、まさか22年後にこのような機会をいただくとは思ってもみませんでした。いつも「今は自分のやりたいことがまだできない、頑張ればいつか好きなことができる」と思って、一生懸命目標に向かって、やってきました。そのために何をするのが正解なのか、何が確実なのか、いつも答えを探し求め、もがいては打ち砕かれて、挫折してもまだ諦めきれず死に物狂いでした。消えてしまいたいくらいに打ちひしがれたり、そのたびに「もうダメだ、私なんかダメなんだ。」と何度思ったか分かりません。

あれから22年、40歳になっている自分の年齢にびっくりしています。高校生の時の私が思い描いていたのとは今の私は違うと思います。でも、それでいいんです。私たちは「今」を生きているからです。

今の私が高校生の自分に伝えてあげたいことがあるとすれば…。「全て自分の中にあるんだよ」ということ。知りたい答えも、やりたいことも、好きなことも、嫌いなことも、本当に全て自分の中にしかないんだよってこと。迷ったり焦ったりした時、どうしても、もがいたり走り回ったりしてしまうことはあるけれど、そんな時こそ、ゆっくりと静かに自分の心と向き合う時間をたっぷり自分に与えてあげて欲しい。自分の心が嬉しくなること、ほっとすること、ときめくこと、それが自分だけにしか分からない「本当の答え」なんです。誰かの物差しではなく、世の中が作った常識でもなく、あなたの幸せはあなただけが知っている。あなたが幸せでいることで最高に輝くことができて、あなたも周りの人もみんな幸せになるんだよ…。

22年前の自分に届けたいこのメッセージを後輩の皆さんが受けとってもらえたら本当に嬉しくて幸せです。～今の連続が未来になる～。あなたの「今」を大切に楽しんで下さい。心から応援しています。いつかお逢いできる日を楽しみにしています。

一度きりの人生を楽しもう！
１５期生　柴田泰佳（ＫＮＢアナウンサー）

04

みなさんは、今どんなことを思って過ごしていますか？

私が大門高校を卒業したのは、今からもう17年前です。こうやって数字で見ると自分でも信じられないくらい、高校時代のことは今でも鮮明に覚えています。とっても濃厚な3年間で、いまだにテレビやラジオでは高校時代のエピソードを話すことが多々あります。私は、どんな高校生だったか？おそらく、手のかかる生徒だったと思います。成績を伸ばすことより、ルーズソックスを伸ばすことばかりに気を取られていましたから…（笑）。当時流行していた鬼束ちひろの「眩暈」を、廊下を歩きながら大声で熱唱していたら、生活指導の恐ろしい先生が前からやってきて、「柴田～！こっちが眩暈しそうやわ！」と言われたこともありました。先生には、たくさん迷惑を掛けたのに、決して私を見放さず、卒業式の日には涙を流して喜んでくれました。牧野先生、お元気ですか？あの頃は言えなかったけど、心から感謝しています。高校生の頃は、反抗期ゆえの両親との衝突や、友人との大ゲンカ、なんで私だけがこんなに不運なんだとお祓いに行ったこともありました。お祓いに行ったことはしっかり覚えているのですが、何に悩んでいたのかは全く思い出せません。人生は、そういったことの繰り返しかもしれません。

ところで、アナウンサーに必要な力は何かと聞かれると、私は迷わず「想像力」と答えます。この想像力を鍛えるのは、自分の経験のみです。悲しい思いも、悔しい思いも、やるせない思いもたくさんしてきました。悩みがなかったことの方が少なかったかもしれません。でも、だからこそ今の自分があると思っています。いまだに大きな壁にぶつかったら、あたふたしていますけどね（笑）。アナウンサーになってからは、それこそ苦悩の連続でした。食リポをしても、ニュースを読んでも、何をしても下手くそだった私は、自分が情けなくて会社からの帰り道は毎日泣いていました。こんな自分に向いていない仕事なんてもう辞めようと、何度も思いました。そんなとき、会社の先輩から「うまくなる努力はしたの？」と言われ、あまりにストレートすぎる言葉に、言葉を失いました。その日から、自分が放送で話した言葉を一言一句、ノートに書き出し、2時間の発声・滑舌練習をしてから仕事に向かいました。こうして、もがき続けながら、アナウンサー人生14年目になります。今は、大好きな富山でこうして仕事ができることを、とても幸せに感じています。みなさんが行き着く先にもきっと幸せが待っています。1度きりの人生を大切に、思いっきり楽しんでくださいね！